リアカメラ・ユニット （RCU-03/RCU-04）

取扱説明書

本装置のご使用に当たって

はじめに ・・・

最終更新日:2012/1/1

本装置のご使用に当たって

本装置をご使用の前に本書を必ずお読みになり、注意事項をお守りください。また、本書は必要なときにすぐに見られるように大切に保管してください。

はじめに

- 本書の内容の一部または全部を無断転載することを禁止します。
- 本書の内容は予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記述もれ等、お気づきの点がございましたらご連絡ください。
- 本装置の使用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

安全に関する表記について〔重要〕

本書では、本装置を安全に正しくお使いいただき、お客様への危害や財産への損害を未然に防止するために、次の絵表示を使用しています。これらの絵表示の個所は必ずお読みください。また、ご使用の前に本書を必ず熟読し、本製品をより安全に正しくご活用ください。

安全性に関する事項

危険	人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定されることを示します。
警告	人が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。
注意	人が傷害(※ 1)を負う可能性または物的損害(※ 2)のみが発生する可能性があることを示します。

※1:傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、ケガ、やけど、感電等を示します。

※2:物的損害とは、車両、車内の他の電装品や器具類、およびペットに関わる拡大損害を示します。

安全上の重要な注意事項

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容

	誤った取り扱いによって、発煙や発火の可能性があることを示します。		安全のために、本装置の分解を禁止することを示します。
	安全のために、その行為を禁止することを示します。		安全のために、その行為を強制することを示します。

設置、配線に関する注意事項について

設置における注意事項

⚠ 警告

- 発火の危険性をなくすために、車外への設置が認められているもの以外は必ず室内に設置してください。水分がかかる所の近く、または極度に湿度の高いところには設置しないでください。
- 本装置内部に異物を入れないでください。金属類や燃えやすいもの等の異物が入ると内部の部品がショートして火災の原因となります。万一、異物が入った場合は、本装置の電源線の接続を外してから異物を取り除いてください。
- 本装置内部に水等の液体を入れないでください。火災の原因となります。万一液体が入った場合は、本装置の電源線の接続を外し、使用を中止してください。
- 本装置をほこりの多い所に設置しないでください。ほこりがたまり、内部の部品がショートして火災の原因となります。
- 本装置を直射日光や熱器具の熱が当たるような場所に設置しないでください。熱により火災の原因となります。

⚠ 注意

- 本装置を不安定な場所に設置しないでください。振動による衝撃で本装置が故障したり、他の装置類の動作に影響を与える恐れがあります。
- 本装置に異常な圧力をかけないでください。故障の原因となります。

配線における注意事項

⚠ 危険

- ケーブルの接続が不完全のまま使用しないでください。ショートや発熱により火災の原因となります。
- 本装置を設置する前に、各ケーブルに破損のないことを確認してください。破損したものを使用すると、故障、火災の原因となります。
- 車両の接続先に間違いが無いことを十分に確認してから接続作業を行ってください。間違ったところに接続すると、異常な電流が流れて本装置や車両側の装置が破損する可能性があると共に、ショートや発熱により火災の原因となります。
- 本装置に接続されているケーブルに物を載せたり、はさみ込んだりしないでください。ケーブルが破損し、火災の原因となります。
- ケーブルを足でひっかけるような場所には配線しないでください。思わぬ事故につながる可能性があります。
- 装置の電源線は、電源供給能力に十分に余裕のあるところに接続してください。装置が正常に機能できないばかりではなく、車両側の電源線に規定以上の電流が流れ、車両の電源線が発熱したり火災に至る場合があります。
- 規定内の電源電圧（直流12V　±15%以内）にてご使用ください。規定以外の電圧にて使用すると、故障したり火災の原因となります。
  （バッテリー電圧12V車以外では使用できません。）

使用、保守に関する注意事項について

使用における注意事項

危険

- 本装置の使用中に異音、異臭の発生や発煙など異常が生じた時は、直ちに本装置の電源線を外し、その後の使用を中止してください。
- 本装置の動作に異常が発生した場合は、直ちに本装置の電源線を外して使用を中止し、配線接続箇所の接触不良が無いか確認してください。接触不良の箇所が発熱し、発煙や火災に至る可能性があります。

保守における注意事項

警告

- お客様ご自身または取り付け業者等において、本装置の分解・修理・改造等はしないでください。分解・修理・改造等を行うと正常に動作しなくなるばかりでなく、火災の原因となることがあります。また、これらを行った場合は、いかなる理由があっても保証対象外となるばかりでなく、有償による修理も対象外となります。

注意

- 年に一度、ケーブルがすり切れていないか、変質しているところがないか等を点検してください。

リアカメラ・ユニット（RCU-03/RCU-04）取扱説明書

この度はホンダ車用リアカメラ・ユニット「RCU-03/RCU-04」をご購入いただきましてありがとうございます。

本書では RCU-03/RCU-04 を快適にご利用いただくために、その機能や接続方法について詳しく説明しています。本内容を十分にご理解の上、正しいご利用を願いいたします。

※：より良い商品開発のため、商品の仕様は予告なく変更される場合があります。

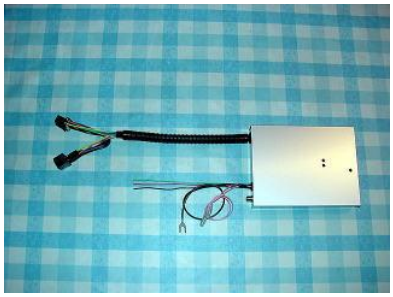
1. 機能概要（装置概要）

ホンダ車純正ナビのディスプレーに、市販のリア（バック）カメラの映像をリバース連動で表示するための装置です。純正リアカメラと同様の制御方式を採用しており、車両との接続も純正品と同じ方式・部品を用いていますので、安心してご利用いただくことができます。

2. 特徴

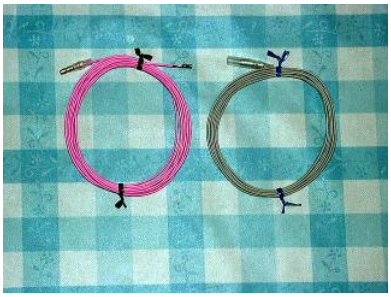
- 多くのホンダ車に取り付け可能。（詳しくは適合表をご確認ください。）
- リバースギアに完全連動。
- 車庫入れ等の切返し時に頻繁にギアを切り換えても、一定時間リアカメラの表示を継続。
- 走行中に TV 視聴が可能に。
- 手動スイッチにより、いつでもバックカメラの表示が可能（手動スイッチ取付時）。
- カプラ・オン（純正品と同様の方法）で取り付け可能。
- 車載用バックカメラとして販売されているものであれば、殆どの機種が接続可能。
  カメラからの映像出力がピンプラグのもの（NTSC 出力、RCA ピンプラグ）であれば OK。

3. 商品外観



RCU-03/RCU-04 の外観です。

ケースの大きさ：W114×D155×H30mm
ハーネスの長さ：約 40cm



左（桃色）がナビ接続ケーブル
（ワンボックスタイプ：4m、セダンタイプ 2m）

右（灰色）がバックランプ接続ケーブル
（すべての車種：2m）

4. 取り付け方法

取り付け方法の詳細につきましては、ホームページより「汎用接続図」をダウンロードしてご利用ください。

4-1. ラグレイトへの取り付け例（当ショップオーナーの取り付け例）

4-1-1. リアカメラの取り付け

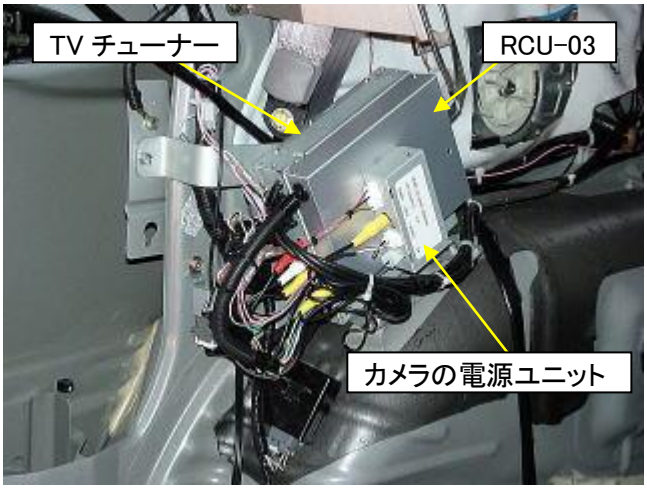
① 先ず最初にカメラの取り付けを行います。
② 右の写真では、ライセンス・プレート上部の窪み部分に通線孔を開けてカメラケーブルを通していますが、ボディーに穴を開けずに配線する方法が各カメラのマニュアルに記載されていますので、どちらかを選択して取り付けます。
ボディーに穴を開けて通線する場合は、カメラケーブル先端のカプラが邪魔になり、通線用の穴をうまく通せませんので、カメラケーブルを途中でカットし、通線後に再接続する必要があります。
③ 通線用の穴を開ける場合は、直径 8mm 程度のドリルを用いて行い、穴あけ後きれいにバリ取りを行い、露出した金属部分にタッチアップペイント等を塗布し、錆び止め処理を行います。
④ 錆止め処理が終わったら（ペイントが十分に乾いたら）、通線孔にゴムのグロメットをはめ込み、ここにカメラケーブルより若干細い穴を開けて（防水のため）カメラケーブルを通します。
⑤ リアゲートの内張りの剥がし方は、商品添付のマニュアルを参照してください。

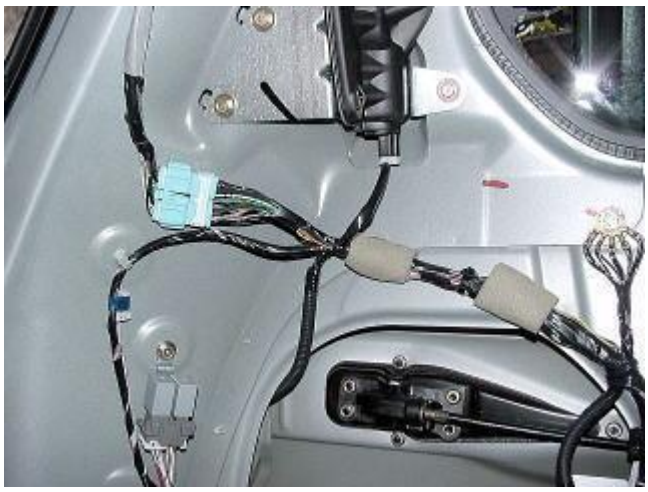
右の写真はユーザー様（東京都の G 様）よりいただいたものです。アゼスト製の CC2010AA を接続されています。
ケーブルの取り回し等、非常に綺麗に施工されています。

4-1-2. カメラケーブルの配線

カメラ･ケーブルは既存の配線に沿わせる形で行います。ケーブルはテール･ゲート内部（室内）から見て右側に配線していき、テール･ゲートのピラー内部からゴムパイプを通してボディー側へと導きます。ピラーやゴムパイプの内部は針金等をうまく使わないと通線できないので、今回の配線作業では最も苦労する部分です。ビデオ･ケーブルはテレビチューナ（左後輪タイヤハウスの近くにあります）付近まで仮配線しておきます。

4-1-3. リアカメラ･ユニットの配線

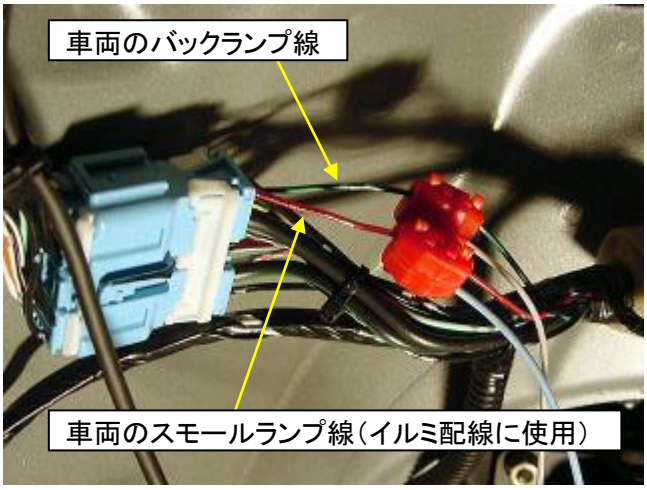




① 商品添付のマニュアルを参照し、左後部側面の内張りを剥がします。
② 左後輪の斜め上にTVチューナーがありますので、リアカメラ･ユニットをこれに抱き合わせるように取り付けます。
③ 取り付けは、RCU-03 の底面に強力両面テープを貼付し、TV チューナーの上に貼り付けます。エクスクルーシブ･タイプではTVチューナーの上にリアモニター用のTVチューナーが乗っていますので、RCU-03は写真左端のボディー側面等に貼り付けます。
④ 更に、カメラの電源ユニットを写真のように貼り付けます。
⑤ RCU-03 の「赤」、「黒」、「緑」線をそれぞれカメラの電源ユニットと接続します。（接続する線の種類はご利用になるカメラによって異なります。詳しくは汎用接続図を参照してください。通常は「黒」と「緑」を接続し、「赤」は使用しません。）
⑥ カメラの電源ユニットと RCU-03 をビデオケーブルで接続します。ビデオケーブルはご利用のカメラによって付属しているものと付属していないものがあります。付属していない場合は、1m ほどの長さのものを電気店などで調達してください。
⑦ TV チューナー後面の 20 ピン･カプラを引き抜きます。カプラは抜け止め用のロックがかかっていますので、白い爪を押さえてこのロックを外しながら引き抜きます。
⑧ TV チューナーから外した 20 ピンのカプラを RCU-03 のカプラに、RCU-03 から出ているもう一方のカプラを TV チューナーに接続します。

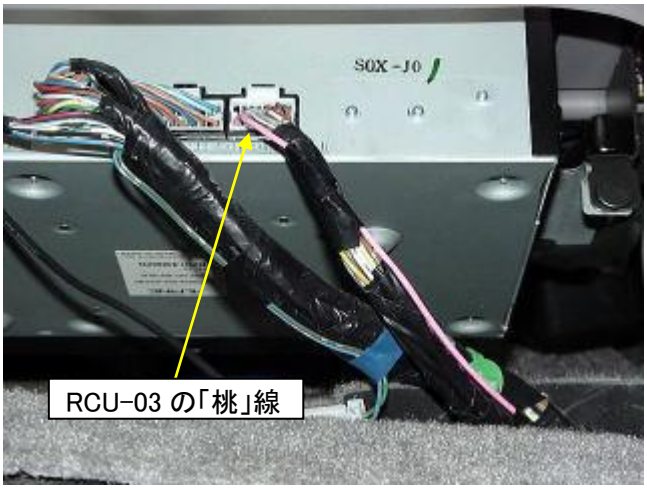
⑨ リアゲートから引いてきたカメラケーブルをカメラの電源ユニットに接続します。
⑩ RCU-03 に添付の「灰」線を2枚めの写真の水色カプラー付近まで配線します。長さを決めたら、RCU-03 から出ている「灰」線とギボシ端子で接続します。
⑪ RCU-03 に添付の「桃」線を、商品添付のマニュアルを参照しながら、助手席下部まで配線します。長さを決めたら、RCU-03 から出ている「桃」線とギボシ端子で接続します。

4-1-4. リバース線の接続



① RCU-03 のリバース連動線（「灰」線）をカプラーの 14 番端子から出ている「緑／黒」線（緑地に黒のラインが入った線）に分岐接続します。
接続は配線コネクタ（赤色）を用い、確実に圧着します。この線の接続が甘いと、うまくリバース連動できませんので確実に行なってください。
② ご利用のカメラにイルミネーション機能（夜間、感度アップ機能）がある場合は、この配線をカプラーの 4 番端子から出ている「赤/黒」線に分岐接続します。
③ カプラーから出ている各配線の色は製造ロットによって異なる可能性があります。必ずコネクタのピン番号を確認し、サーキット・テスター等を用いて 14 番端子はリバース時に、4 番端子はスモールランプ点灯時にそれぞれ 12V が出力されることを確認してください。

4-1-5. ナビゲーション・ユニットとの接続



① 商品添付のマニュアルを参照して、助手席シートを取り外します。
助手席シート下部にナビユニットが設置されていますので、ここに RCU-03 から引いてきた「桃」線を接続します。
② 右の写真はナビユニットの背面です。背面の一番右側のカプラの左端縦 2 つのピンが空きになっていますので、下側の空き端子に「桃」線のピンを接続します。接続の仕方は「接続説明書」に詳細が記入されていま

すので、これを参照して間違いのないように行ってください。ピンは一度差し込んでしまうと 2 度と抜けません。差し込みは細心の注意を払って行ってください。

4-1-6. 接続後の確認と設定

① ここまでの配線が終了したら、再度接続に間違いがないか確認して下さい。
② 接続に間違いがなければエンジンを始動し、動作確認を行います。
シフト・ポジションをリバースにしたときにカメラ画像が表示され、シフト・ポジションをリバース以外にして5秒後に元の表示に戻れば正常に動作しています。
③ 稀にカメラとの相性により、RCU-03 の画質調整が必要になる場合があります。この場合は商品添付のマニュアルに従って調整を行って下さい。
④ 全ての動作確認が終了したら、配線類をきれいに整理し、外した内張りなどを元に戻してください。
⑤ TV チューナーの配線を外したので、TV チューナーに記憶されていたチャンネル設定が消去されています。車両のマニュアルに従って、再度設定し直してください。

4-1-7. 参考情報

ラグレイトのナビには外部ビデオ入力の切り替えがあるのですが、肝心な端子が外部に出ていません。

この端子は TV チューナーにあるのですが、TV チューナーは内張りの中にあって、簡単に外部ビデオなどを接続することができません。

そこで、今回の RCU-03 取り付けで内張りを外すので、TV チューナーの外部入力端子にビデオケーブルとオーディオケーブルを接続し、写真のように簡単に外部入力を接続できるようにしました。

RCU-03 は走行中でも TV が見られるようになる機能がついていますので、この対応は意味があるのではないでしょうか?

（注意） エクスクルーシブ車はテレビチューナーの「外部ビデオ入力端子」の形状が異なり、RCA ジャックではなく 6P のカプラーになっています。このカプラーはディーラーで調達できますので、これを利用して、上記と同様に加工してください。

4-1-8. 取り付け状況

画像表示例。
画像下端両サイドの赤い部分は車両のテールランプ、下端の黒い部分はバンパーです。

Panasonic の TW-CC200B の取り付け例。
写真は分かりやすいようにクローズアップしていますが、カメラの取り付け状態は目立つことはありません。

ECLIPSE 製 BEC104G の取り付け例。
写真は分かりやすいようにクローズアップしていますが、カメラの取り付け状態は目立つことはありません。

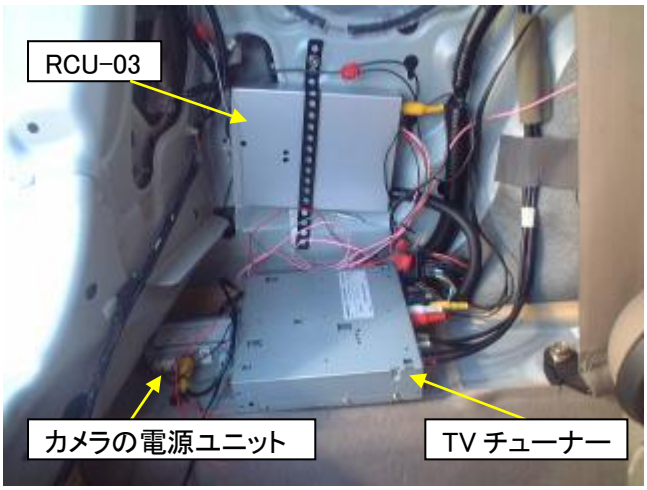
4-2. オデッセイへの取り付け例（ユーザー様の取り付け例）

オデッセイへの取り付けは基本的に上記ラグレイトと同様の方法で行います。

4-2-1. 取り付け例1（神奈川県の F 様：Odyssey RA6）

下の金属ケースが純正の TV チューナ、これの左横の小さな金属ケースが ECLIPSE 製バックアイカメラの電源ユニット、縦に汎用取付ステーで固定されているのが RCU-03 です。

非常にうまく取り付けられています。



カメラの取付例です。

カメラはリアスポイラー(ハイマウント ストップランプ)の下に取り付けられています。

配線の取り回しもうまく施工されているようで、外からはケーブルが全く見えません。

カメラ画像です。

画面の下 約 2/5 位がリアウィンドーです。中央やや下の左側にリアワイパーが見えます。画面左に写っている黒いものはリアアンダーミラーです。

上記カメラの取付位置で、画面左側に見える看板との距離は約 40cm とのことです。

4-2-2. 取り付け例2（広島県の S 様：Odyssey RA9）

カメラの取付例です。
カメラはリアスポイラー(ハイマウント ストップランプ)の中に取り付けられています。

RCU-03 本体の取り付けは、上記 RA6 の写真の TV チューナー左側のスペース（写真ではカメラの変換ボックスが設置されている）に、RCU-03 本体とカメラの変換ボックスを重ねて設置されたとのことです。

カメラ画像です。

上記 RA6 とカメラの設置位置が同じなので、ほぼ同様の画像となっています。

4-3. レジェンドへの取り付け例（ユーザー様の取り付け例）

4-3-1. 取り付け例（宮城県の S 様：Legend KA9）

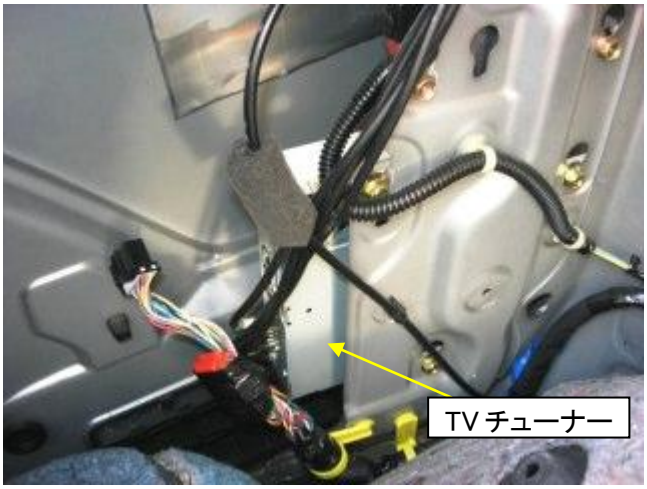
カメラ取り付けのための穴あけ加工をしているところです。

カメラは Panasonic の CY-RC50KD を使用されています。

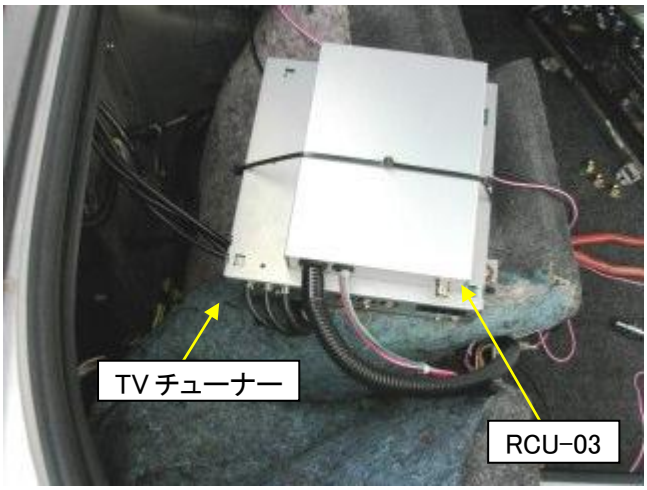
カメラ取り付け後の写真。

ライセンスポケット内に綺麗に収まっています

TV チューナーの位置。
トランクルーム左の内張りをめくると写真のような形で取り付けられています。

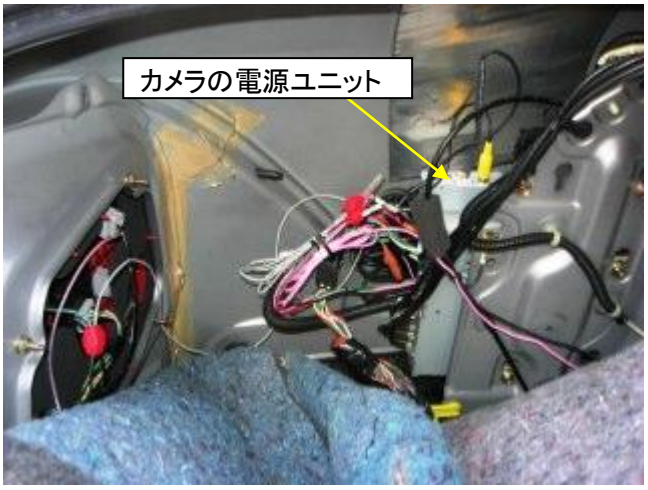


TV チューナーを外し、RCU-03 を亀の子状に設置したところ。



上記状態で TV チューナーを元の設置位置に戻し、更に RCU-03 の上部にカメラの電源ユニットを設置。

TV チューナーと RCU-03 の接続が終了した状態。

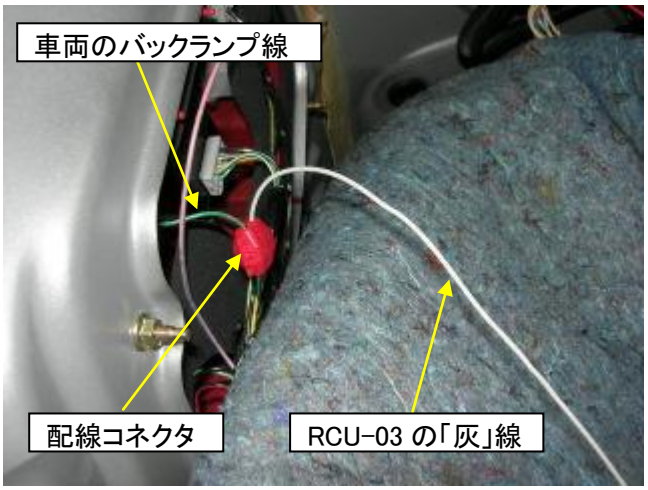


RCU-03 の「灰色」線の接続。

バックランプから出ている「緑」の線に、RCU-03 の「灰色」線を接続します。

接続は市販の配線コネクタ(写真中、赤色のもの)を用いて行います。

RCU-03 の「桃」線はラグレイトと同様に接続します。



取付後のディスプレーの写真。

この状態で、シャッターとバンパーの距離は 25cm とのことです。

TV チューナーの VTR 入力にカメラを接続するよりも、画質が綺麗であるとお褒めのお言葉を頂戴いたしました。

5. 保証規定

商品の製造には万全を期しておりますが、万一不具合が発生した場合には、下記の保証規定にしたがって対応いたします。また、不具合発生原因の大部分が接触不良や接続先間違いです。ユニットの不良を疑う前に、十分な接続状況のご確認をお願いいたします。

1) 保証期間

- 保証期間は商品発送の翌日を基点として1年間です。

2) 保証範囲

- 保証期間内に通常の使用状態において発生した故障に限り、無償で修理いたします。
- 初期不良の場合は新品交換の対象となりますが、交換は次の条件をすべて満足する場合に限ります。
  - 商品発送の翌日から2週間以内にご申告をいただくこと。
  - 初期不良であるか否かの認定は対象品を確認した上で行うため、先ず最初にこの対象品をご返却いただくこと。
  - 確認の結果、不具合の原因が製造または輸送中に生じたものであると認められること。
  - 確認の結果、修理で対応するには多大な工数が必要か、品質管理上問題があると認められること。
- お客様の取り扱い不良（配線の接続間違い、過負荷等）に起因する故障については、保証期間内であっても有償修理となります。
- お客様において製品の基板をケースから取り外したり、基板を覆っている絶縁被覆を剥がした形跡のあるものについては、特別な理由がない限り、点検・修理・交換の対象外となります。 仮にお送りいただいても、何もせずに返却させていただきます。
- 転売によるご購入品の場合は、保証期間等の追跡管理ができないため、保証対象外となります。

3) 修理・交換に係る対応

- 点検・修理には、およそ1週間程度の時間が必要となります。
- 点検・修理に至った理由の如何に関わらず、製品の往復にかかる送料についてはお客様の負担とさせていただきます。 修理品のご返却は宅配便の送料着払いとなります。
- 有償修理となる場合は、事前におおよその料金について通知を行い、お客様の了解をいただいた後に修理を実施いたします。 ご了解いただけない場合は、修理せずにそのままの状態でお返しいたします。
- 保証期間外において点検を行った結果、製品が正常と判断された（修理を行わなかった）場合でも、所定の点検料金を申し受けます。料金は点検内容によって異なります。